

3-1-1 景観の構成要素

郡山市は、安積平野又は郡山盆地と呼ばれる平坦地に市街地が広がり、東は阿武隈山系、北は安達太良山頂、西は猪苗代湖に接しており、豊かな自然に囲まれています。また、代表的な河川としては、阿武隈川をはじめ、笹原川や逢瀬川、藤田川、五百川などがあります。

数字で見ると市域75,706haのうち、山林が約半分を占め、ついで田、畑、宅地となっており、いかに自然に恵まれているかがよくわかります。

このような豊かな自然環境を礎とし、長い年月の間、人々が生活を営むことによって、郡山市の現在の景観が形成されてきました。

良好な景観づくりを推進していくためには、背景となる山並みや水辺などの自然の景観、そこで営まれている人々の生活の景観、また郡山市固有の歴史や文化の景観をとらえ、郡山市の景観づくりとは何かを考えていく必要があります。

<定義と対象要素>

※1 「公園」

まとまりのある緑を有する大規模な公園は、「自然景観」の「みどり」で扱い、市民が日常的に利用する市街地の公園は「生活景観」の「住宅地」で、また、観光地となっている公園は「生活景観」の「観光・レクリエーション」で扱います。

※2 「田園集落地」

田園地域の中で人家が集まって集落が形成されている場所を「田園集落地」としています。

※3 「文化財」

文化財保護法で保護の対象として取り上げた有形文化財、無形文化財、民俗資料、史跡名勝天然記念物の4つをいいます。

国、福島県、郡山市それぞれの指定があり、現在、郡山市では合計146件が指定されています。

| | 定義 | 対象要素 |
|----------|---|---|
| 自然景観 | 景観の骨格を形成する地形、山並み、湖沼、河川、森林、大規模な公園※1などの水と緑 | ○奥羽山脈などの山並み ○猪苗代湖などの大きな水辺 ○阿武隈川などの河川 ○田園 ○斜面林 ○大規模な公園、緑地 |
| 生活景観 | 住宅地の生活風景や産業を感じることでできる場所 交通施設を通じて感じることのできる人々の生活風景 交通施設そのものがつくる景観 | ○住宅地 ○田園集落地※2（農業地） ○商業地 ○工業地 ○広告物 ○流通業務地 ○交通施設 |
| 歴史・文化的景観 | 歴史的な施設や町並み、有形文化財などの歴史的、文化的資産 伝統的な行事や文化的な活動 | ○歴史的公共建築物 ○文化財※3 ○文化施設 ○寺社・仏閣 ○歴史的な町並み ○伝統的な建造物 ○歴史を感じる樹木 ○伝統的な行事、音楽イベントなど文化的な活動をする場 |

3-1 郡山市の景観の概要

3-1-2 郡山市の景観の概要

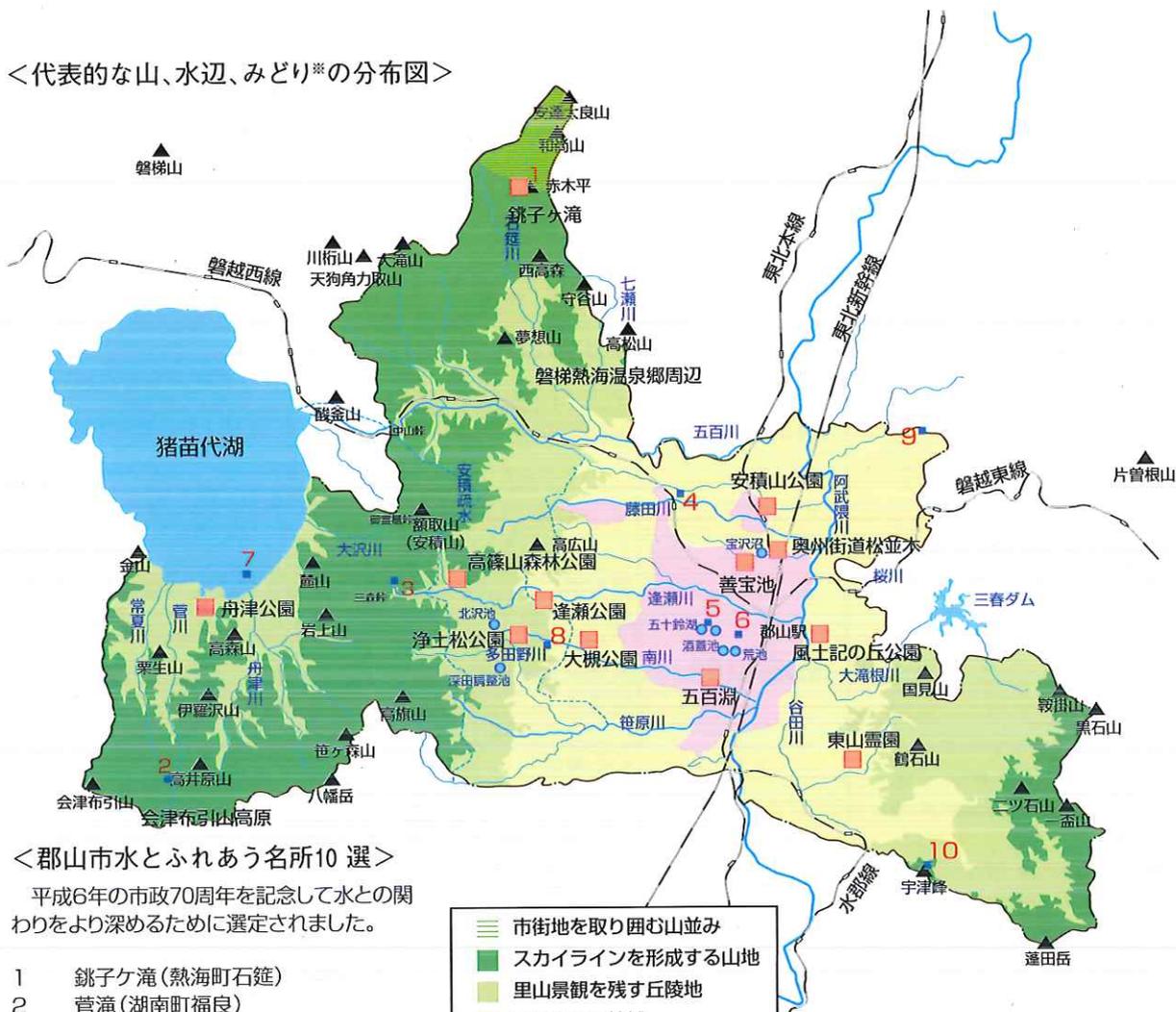
【1】自然景観

郡山市の特徴としては、我が国第4の大きさを誇る猪苗代湖や、多くの川が流れ込んでいる阿武隈川をはじめいくつもの河川があります。その阿武隈川を代表するいくつもの河川により形成された安積平野を中心として、東部には阿武隈山地が、西部には奥羽山脈が、それぞれ南北に縦断しており、これらに代表される森林は、市域の52%を占めています。また、市街地の東側では緑豊かな丘陵地に集落が点在しており、西側では山並みを背景とした広がりのある田園地域があり、市街地の景観と対比的な魅力を醸し出しています。本市は、これらの河川や山脈など、「水と緑」により発展した歴史を持っています。

※「みどり」

人間の視点から見たときに、大きなまとまりのある自然的な緑と感じられるものを「みどり」とひらがなで表記します。

<代表的な山、水辺、みどり*の分布図>



<郡山市水とふれあう名所10選>

平成6年の市政70周年を記念して水との関わりをより深めるために選定されました。

- 1 銚子ヶ滝(熱海町石筵)
- 2 菅滝(湖南町福良)
- 3 大滝溪谷(逢瀬町多田野)
- 4 藤田川(喜久田町堀之内)
- 5 五十鈴湖(開成・開成山公園)
- 6 弁天池(麓山・麓山公園)
- 7 湖南七浜(湖南町・猪苗代湖)
- 8 清水池(逢瀬町多田野)
- 9 子和清水(西田町丹伊田)
- 10 御井戸の清水(田村町谷田川)

| | |
|---|---------------|
| ≡ | 市街地を取り囲む山並み |
| ■ | スカイラインを形成する山地 |
| ■ | 里山景観を残す丘陵地 |
| ■ | 平坦な田園地域 |
| ■ | 起伏のある田園地域 |
| ■ | 国立公園区域 |
| ▲ | ランドマークとなる山 |
| — | 市街地の骨格をなす水辺空間 |
| ■ | 「みどり」を感じさせる公園 |
| ■ | 市街地 |

| | |
|---|-------------|
| ■ | 1500 - |
| ■ | 1000 - 1500 |
| ■ | 700 - 1000 |
| ■ | 500 - 700 |
| ■ | 300 - 500 |
| ■ | - 300 (m) |

[2] 生活景観

私たちは、「住む」「働く」「学ぶ」「遊ぶ」といった社会活動を行うために、「まち」という大きな空間に人為的な手を加えています。これにより、私たちの身の回りにある景観は常に変化しています。

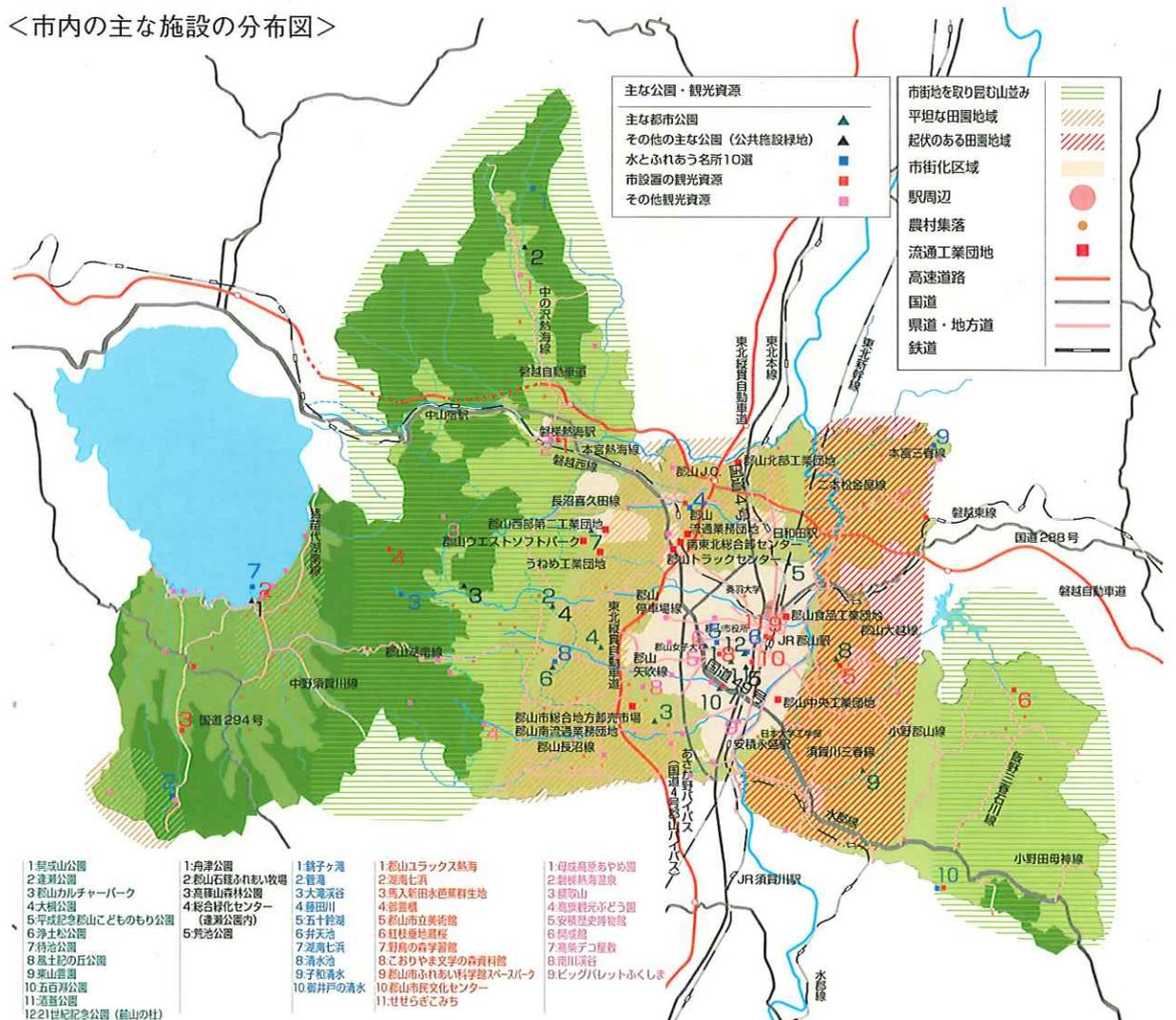
生活景観は、「住む」という基本的な活動の場となる住宅地、「働く」という観点からは、農業地、工業地、商業地をあげることができます。

「学ぶ」という観点からは、主に学校などの教育施設がありますが、これらの施設は、住宅地にあることが多いため、ここでは住宅地として整理します。

「遊ぶ」という観点からは、観光地やレクリエーション施設などをあげることができます。

また、私たちは「まち」の中を「移動する」ためさまざまな移動手段を使います。例えば、徒歩、自転車、自動車、鉄道、飛行機などです。これには、移動する際に見ることのできる町並みなどの景観と、鉄道や道路などの交通施設そのものが生み出す景観があります。

<市内の主な施設の分布図>



3-1 郡山市の景観の概要

【3】歴史・文化的景観

郡山市には、多くの史跡や名勝が市内全域に存在します。代表的なものとしては、「安積開拓」とそれを支えた「安積疏水の開削」の歴史の記憶をとどめる施設ですが、もっとも古いものでは、旧石器時代まで遡る歴史や文化が受け継がれています。これらの歴史的、文化的な資産は、現代に生きる私たちにとって「まち」の成り立ちを知ることのできる重要な財産です。これらのうち、実際に目で見ることができる町並みや建造物、樹木などは、私たちに直接、歴史や文化を感じさせ、景観資源としても価値のあるものとなります。

また、公会堂や開成山野外音楽堂などで行われる文化的な活動や、その他の伝統的な行事や祭事なども、一時的な景観資源としてあげることができます。

<歴史・文化的資源の分布図>

